

第VI章

本計画の推進に向けて

1. 計画推進にあたっての視点

都市づくりの実現に向けては、都市計画マスタープラン改定の基本的な考え方で掲げた「川との共生」「公民連携の推進」「地域産業の活性化」を推進することが重要です。そのため、本章において、将来都市構造の視点を明確に定め、戦略的に必要な施策を推進します。

まちづくりを進めるにあたっての常総市の環境

<ul style="list-style-type: none"> □洪水浸水想定区域における水災害リスク □災害時における市西部地域の道路交通網の脆弱性 	<ul style="list-style-type: none"> □人口減少による税収減 □少子高齢化による歳出増 □既存ストック(公共施設跡地, 空き家等)の利活用 □公共交通網の利便性向上 	<ul style="list-style-type: none"> □農業の担い手不足 □産業系土地利用の需要増に対応した計画的な誘導 □就業者の受け皿となる住居系市街地の整備
--	--	--

「川との共生」 安全安心のまちづくり	「公民連携の推進」 持続可能なまちづくり	「地域産業の活性化」 魅力あるまちづくり
<ul style="list-style-type: none"> □「川」は歴史を共に歩むパートナーであり、河川堤防整備等による水災害への備えとともに、水辺空間を活用した回遊性の向上により広域での賑わい創出を目指す「かわまちづくり」を推進します。 □SDGs(持続可能な開発目標)に掲げられた「住み続けられるまちづくりを」達成目標に全ての人が安心して暮らせる環境づくりを目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> □住民ニーズが多様化する中で、地域課題解決のため、様々な主体(住民・事業者・地域組織・NPO・教育機関等)が参画し協働するまちづくりを推進します。 □都市を構成する要素は多種多様であり、都市計画分野以外での連携が必要不可欠なため、関連分野との調整を行いながら施策の連携について推進します。 	<ul style="list-style-type: none"> □基幹産業である農業を守り、魅力あるまちの強みとして生かすため、ASV 常総を基点に、周辺環境と調和した新たな産業環境の形成に取り組みます。 □都市を巡る様々な課題に対し、AI 技術の活用や都市計画情報の3D 都市モデル整備等を進め、まちづくりDXの推進やスマートシティ※の社会実装を目指します。

計画推進に向けた取組

- 都市計画, まちづくり事業などに関する情報発信の強化
 - 現在実施している市のホームページや広報紙等による情報提供を充実するほか、事業実施に向けての地元説明会等を開催し、住民参加機会の拡充・強化を図ります。
- 多様な主体が関わる協働機会の提供
 - まちづくりの課題や課題解決に向けた取り組みを実践するため、市民をはじめとして、学生や本市に関わりのある多様な主体(個人や企業)が参加する協働機会を提供します。

序章

第I章

第II章

第III章

第IV章

第V章

第VI章

資料編

2. 都市づくりの戦略

第Ⅲ章の将来都市構造を実現するため、計画目標年次である令和22年(2040年)までを短期・中期・長期の三期に区分し、本市が目指す都市構造と実現のシナリオで示した「必要な取組み」で位置づけた施策等のロードマップを次のように設定します。

表－都市づくり戦略

項目		内容
短期 (2024～2026)	既存拠点への集積	<ul style="list-style-type: none"> ○直近の都市計画の課題に対応する施策を展開するとともに、2030年の目指す都市構造実現に向け、防災指針を盛り込んだ立地適正化計画に基づく都市の集約化と公共投資の効率化を目的に、市街地再整備に向けた都市再生整備計画等を策定し、用途地域の見直しや整備率が低い都市計画道路の見直しを進めます。 ○コミュニティバスやデマンド交通等の利用状況や都市計画基礎調査等の統計データを AI 等の新たな情報技術を用いて分析し、公共交通の運行経路最適化に向けた検討を行います。 ○就業者の市内居住促進に向けた住宅施策構築のための調査を行います。 ○市街地における内水氾濫のリスク調査と必要な対策を検討します。
	将来に向けた可能性を受容する都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○鬼怒川ふれあい道路(西幹線)整備に向けて、都市計画道路再検討調査に基づき、都市計画道路の見直しを行い、未整備区間の具体化を図ります。 ○産業用地の創出に向け、各種制度を活用し、事業を推進します。
中期 (2027～2030)	既存拠点への集積	<ul style="list-style-type: none"> ○都市再生整備計画に基づく補助事業等を活用し、市街地(水海道・石下・中妻・豊岡・内守谷)のインフラ整備や既存ストックの利活用に取り組みます。
	将来に向けた可能性を受容する都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○三妻駅周辺においては、都市再生整備事業等を活用し、ASV 常総との交通結節機能の向上と就業者の居住促進に向けた住居系市街地の整備検討を進めます。 ○ASV 常総周辺における農業の高付加価値等を支援する複合系土地利用の拡張に向けた検討を進めます。 ○大生郷工業団地周辺において、産業用地の拡張に向けた関係機関との協議を進めます。 ○産業用地の拡張に伴い、既存の工業団地(大生郷・坂手・内守谷・花島)及び周辺や ASV 常総周辺において市街化区域編入に向けた検討を進めます。 ○AI を活用したモビリティによる拠点間連携(三妻駅と ASV 常総、水海道・石下市街地の回遊性確保、あすなろの里のレクリエーションエリアへの導入)の構築に取り組みます。 ○鬼怒川ふれあい道路(西幹線)の整備が進み、新たな産業集積に対応するため、圏央道スマート IC の設置に向けた検討を進めます。
長期 (2031 以降)	既存拠点への集積	<ul style="list-style-type: none"> ○都市再生整備計画に基づく補助事業等を活用し、市街地(水海道・石下・中妻・豊岡・内守谷)の拠点整備や都市の集約化を進めます。
	将来に向けた可能性を受容する都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ASV 常総周辺において、農業の高付加価値等を支援する複合系市街地の拡張に取り組みます。 ○大生郷工業団地周辺において、産業用地の拡張に取り組みます。 ○水災害リスクが相対的に低い豊岡市街地周辺において、住居系機能を補完する新たな市街地形成についての検討を進めます。 ○AI を活用したモビリティによる市街地間の接続を目標に、運行に必要な道路整備を進めます。

表－都市づくりのロードマップ

必要な取組み	2030年		2040年	
	短期	中期	長期	
市街地の再整備 (水海道・石下・中妻・豊岡・内守谷)	→			
三妻駅周辺整備	→	→	→	
A I を活用したモビリティによる拠点間連携	→			
坂手工業団地周辺への産業用地の拡張	→	→		
内守谷工業団地周辺への産業用地の拡張	→	→		
鬼怒川ふれあい道路(西幹線)整備	→			
A S V 常総周辺への機能集積	→	→	→	
大生郷工業団地周辺への産業用地の拡張及び圏 央道スマート I C の設置	→	→	→	
豊岡市街地周辺での住居系市街地の拡張	→	→	→	
市街地や生活拠点間を接続する道路での A I を 活用したモビリティへの対応	→			

序章

第 I 章

第 II 章

第 III 章

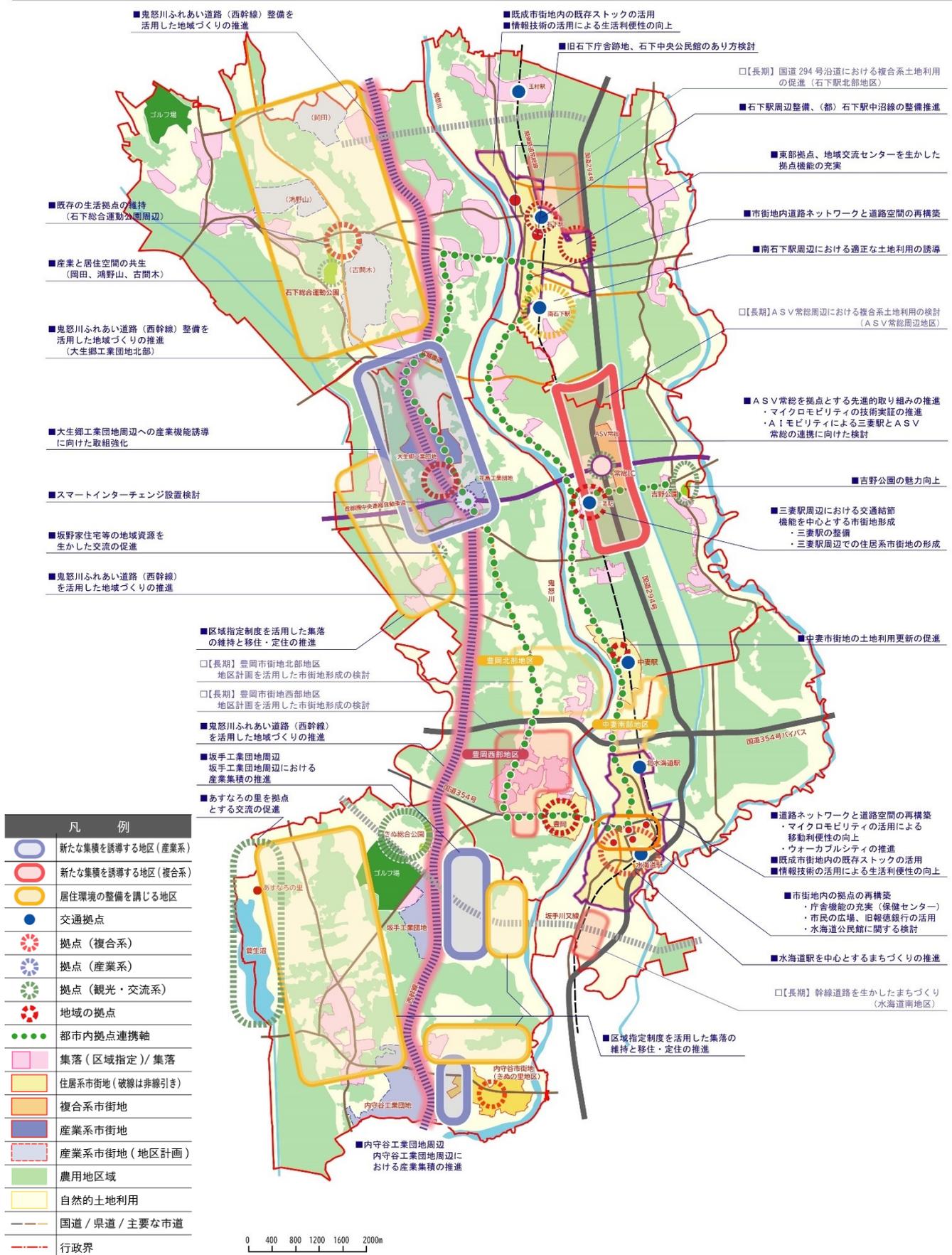
第 IV 章

第 V 章

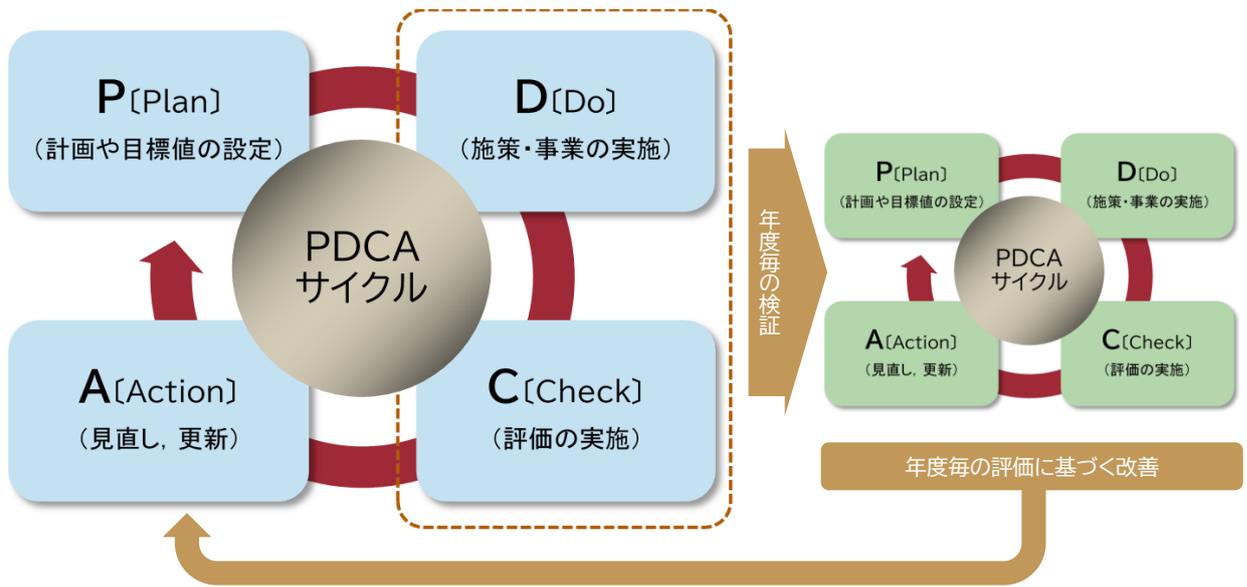
第 VI 章

資料編

図一 地域別構想図(全体系)



図－PDCAサイクル



4. 計画の見直し

都市計画マスタープランは、概ね20年後の都市の姿を展望したうえで定めることが望ましいことから、先に策定した立地適正化計画の計画期間と整合を図り、令和22年(2040年)を目標年次として目指すまちの姿を設定し、将来都市像の実現に向けたまちづくりの方針を示しています。着実に計画の実現に向けた取り組みを推進しつつ、上位計画の改定や、今後の法制度の改正、急激な社会経済情勢等の変化にも対応できるよう、柔軟な見直しを検討するものとします。

図－計画の見直しイメージ

